

I 牧師と信徒の役割の分担

「私たち（教会の指導者、教職者、御言葉の奉仕に召された者）が神のことばを後回しにして、食卓のことに仕えるのは良くありません。そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵に満ちた、評判の良い人たちを七人（執事）選びなさい。その人たちにこの務めを任せることにして、私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します」使徒6：2－4。

1. 神が与えられる牧師の使命、本分＝「みことばと祈りの奉仕に専念する」。

教職者が、みことば（礼拝説教、御言葉の学び。牧師自身が、じっくりと神と交わり、学び、原語を調べ、皆さんの心に届く説教を準備する為には時間がかかる。土曜日だけではできない。お祈り下さい。神学校時代、奉仕教会から、説教を年に1回か2回依頼される時も大変だった。卒業したら、毎週、50数回、説教できるだろうかと恐れたことを思い出す。皆さんが、その立場に立たれたらと想像されつつ祈って下されば幸いです）と祈り（教会員と求道者他の人々の為の執り成しの祈り）に専念する時、教会は成長する。主キリストは教会の頭。主の御言葉を語る命ある礼拝説教は、教会の霊的臓腑。霊的血液を教会の全身に届ける。それで教会は強められる。

当教会は、信徒の方々が、色々な奉仕を主に感謝しつつ下さり、この七年間、牧師である私は、「みことばと祈りの奉仕に専念」できた事を心から感謝します。皆さんが良く祈り、説教の準備の時間を下さる事、良く聞いて下さる事、大きな励まし支え。私の後任牧師の方も「みことばと祈りに専念」できるように祈り支えて下さい。それはお互いに祝福を受ける恵みです

2. 神が与えられる信徒の使命、役割。

「それぞれが賜物（主の教会を建て上げる能力）を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい」I ペテロ4：10

主の恵みに感謝し、各自奉仕をさせていただきながら、成長させられ、共に主の教会を建て上げる事は感謝な恵み。礼拝司会、賛美、奏楽、祈り、説教者の準備の為の祈り、説教を神からのメッセージとして良く聞く（説教者への最大の支えとなっています。感謝！）、パワーポイント、音響録音、聖餐式準備、受付、週報・説教印刷、持寄りの食事、礼拝2部子供担当、ゴスペル教室準備、ファミリークリスマス準備、会計、図書、メールボックス入れ、日用品・消耗品管理、週報・連絡配信、庭の手入れ、玄関先と屋根の除雪、宗教法人事務、ホームページ、ケーキ担当、祈りのしおり、子供賛美、証し伝道。互いに組み合わせられて教会が建て上げられている。そのお陰で、牧師は祈りとみことばに専念できる。

II 牧師の務めと信徒の支え

「キリストご自身が、…ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました」エペソ4：11

1. 牧師招聘のプロセスにキリストご自身が働いておられる。

2. 牧師の務め＝「それは、聖徒たちを整えて（求道者との学び。信徒を御言葉、祈られての説教＝信徒との共同の業の説教で育て、人々から相談を受け、共に主を見上げて祈る。牧師にではなく、主につく人を育てる）、奉仕の働きをさせ（無理した奉仕ではなく、賜物に応じて、恵みに感謝しての奉仕）、キリストのからだを建て上げるためです」エペソ4：12。

3. 信徒の支え。牧師の為に祈って下さる事。

パウロの切なる要望。「私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください。…語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください」エペソ6：19, 20。

悪魔は、牧師を霊的に攻撃する。悪魔の誘惑に負けないように祈り支えていただきたい。後任の方の為に。

※私達夫婦の母の介護。難しい状態に近づいている。この残りの1年も祈り支えて下さい。後任者の為にも祈り支えて下さい。

Ⅲ 牧師と信徒との関係

1. 牧師の側＝「割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい」

I ペテロ5：3。

愛の反対は、支配。支配するとは、相手を受愛することなく、相手の人格を縛る事。相手を自分の型にはめようとする。相手に健全な「ノー」を言わせない圧力。これは、すべての人間関係に当てはまる。夫と妻、親と子、すべての人間関係で、支配は、相手の人格を殺し、健全な自立を壊す。喜んで互いに愛し合う関係を壊す。相手を支配せず、個性や良さを認め励ましたい。

2. 信徒の側＝「若い人たちよ、長老たち（教会の指導者達に）従いなさい。みな互いに謙遜（相手を支配しないで愛し、仕え合う。互いに聴く耳を持つ）を身に着けなさい」 I ペテロ5：5。

信徒も、牧師、牧師夫人を支配しない。教職者、教職者夫人が100人いれば、100の個性、性格、特徴、賜物の違いがある。人格を縛らず、特徴を認め受け入れて、協力して教会を建て上げたい。後任牧師ご夫妻の個性、賜物を認め受け入れていただきたい。

「一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります」 I コリ7：7

3. すべての人間関係で大切な事＝

①相手を支配しない支配されない。支配とは、相手の人格の自由を認めず、自分の所有物の様に扱う事。相手と自分の人格の境界線を認めない事。

②相手を誰かと比較して量らない事。

「私たちは、自分自身を推薦している人たちの中のだれかと、自分を同列に置いたり比較したりしようとは思いません。彼らは自分たちの間で自分自身を量ったり、互いを比較し合ったりしていますが、愚かなことです」 II コリ10：12。

大人も、子供も、牧師も、牧師夫人も、信徒も、すべての人が、最も嫌がるのは、「〇〇さんは、あんなに立派なのに、どうしてあなたは、それくらいしかできないの」という言葉、人間評価である。これは決してしてはならない。愛と正反対の支配の言葉、人を殺す言葉。人は、誰かと比較されては育たない、やる気は出ない。人は、今の等身大の自分を愛をもって受け入れられた時、自ら、変えられたい、成長したいという願いが与えられる。これは、私達を育てて下さる愛の神の私達への接し方。

「キリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れ合いなさい」

ローマ15：7

Ⅳ 完璧な教職者、教職者夫人は、どこにもいない事を認める。

牧会者も、夫人も、信徒も互いに交わり祈り合い支え合う中で主が成長させて下さる。

1回のお見合いでは、お互い分からない事が多い。それ故、3年間、牧会をしていただき、お互いに理解し合い、その後の継続を互いに祈り求める。

お互い、皆で、すべてを支配し、最善に導いて下さる主を見上げて進みたい！

「すべてのことがともに働いて益となる」ローマ8：28